

アトリエ 琉游舎 だより 75号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2020年3月25日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

般若心経を読む

- 毎月第2・第4火曜日に開催している読書会は4月14日の会から「般若心経」を読みます。「般若心経」は262文字ほどの経です。毎月第一日曜日に行く写経会でも何度かこの経を写経してきました。毎朝唱えられている方もいらっしゃることでしょ。読むだけであれば2, 3分で終わってしまいます。意味を辿るだけならば15分ほどで済んでしまいます。
- 仏教のエッセンスが262文字の経文に凝縮されているといわれている「般若心経」は日蓮宗では通常読む経ではありませんが、得度してから何度か読みまた解説書も何冊か読んでまいりました。最近も2冊ほど読み直してかつて読んだ時はちんぷんかんぷんだった内容が少しは理解できるようになりました。しかし分からないことには変わりありません。
- 理解して分かったということはそれを人に説明できることだと思います。私が現時点で今皆さんに説明できる分かったことは「般若心経」を含め経を解説することはナンセンスであるということ、そして経は理解するものではなく信じるものだという事です。
- というわけで新しく始まる「般若心経」の読書会も皆さんの理解のためには役に立たないかもしれませんが、分からないことは分からないままに「般若心経は何を言っているかさっぱりわからんぞ。でもちょっと引かかるな」という感覚を皆さんと共有できる場になればいいなと考えています。テキストはご用意しますので手ぶらでお越しください。
- 書かれている文字の解説だけなら2回もあれば終わってしまうでしょう。でも皆さんと「あーだこーだ」と思い思いに話していくと終わりのない何回も続く読書会になるかもしれません。ちなみに正式な経題は「仏説摩訶般若波羅蜜多心経」と言います。経題はすべての経文の意味をその中に含むとも言われています。「仏の説いた安らぎの処へたどり着くための偉大なる智慧の真髓を示した経」というような意味でしょうか。やはり分かったようで、分かりませんね。無理して分かつとしないで、分からないことは分からないままにやっていきます。お待ちしております。

4/2	13時半	カサブランカ (102分)	ハンフリー・ボガード主演。激動の時代、別れた恋人、再燃する愛。ロマンティックな3つの要素と「君の瞳に乾杯」などの名台詞がふんだんに、盛り込まれたラブストーリーの傑作。
4/9	13時半	逃走迷路 (109分)	ヒッチコック監督。航空会社に勤めるハリーは工場への破壊工作の濡れ衣を着せられ、手錠のまま逃亡するが、、、サスペンス映画史に残る傑作。
4/16	13時半	ベリッシマ(109分)	ルキノ・ビスコンティ監督。娘を映画のオーディションで優勝させ子役スターにしようと躍起になる母親。最終審査の日母親は娘が話題になるシーンを見てしまい、、、
4/23	13時半	夜霧の港 (95分)	ジャンギャバン主演。カリフォルニアの小さな港町で働くフランス人ボボ。ある晩彼は入水自殺しようとしたアンナを助け、港の小屋で結婚生活をはじめようとしていたが。
4/30	13時半	サハラ戦車隊(97分)	ハンフリー・ボガード主演。北アフリカ戦線。ロンメルが指揮する伊軍の大攻勢に米軍は撤退命令が出るがM3中戦車エンジンの故障により落伍3名は本隊から逸れてしまう。
5/7	13時半	疑惑の影(107分)	ヒッチコック監督。叔父のチャーリーを迎え入れたニュートン家。長女だけが彼に不信を抱く。次第に深まる叔父に対する疑念と謎。抑制された演出で緊張感を描いた佳作。

写経会

4月5日(日)
13時半から

読書会

4月14日(火)
13時半から

詩話会

4月11日(土)
13時半から

居酒屋の会

毎月25日
16時から

人偏（にんべん）は人間の行為・動作に関連する漢字に用いられる偏です。人の為と書くと「偽（いつわり）」という文字になります。人に夢と書くと「夢（はかない）」という文字になります。人が木によりかかっています。「休む（やすむ）」という文字です。いずれも漢字の成り立ちや形が分かりなるほどと思われる文字です。ところで人に言（ことば）と書くと「信（まこと）」という文字になります。漢字が生まれた古代中国ではどうやら人が語る言葉は真実（まこと）と考えられていたようです。私はそんな牧歌的な時代があったことに驚き、またうらやましくも感じます。現代の私たちは人の語る言葉が真実か偽りかを判断する能力が不可欠です。もしその能力が欠けていたならばこの日本の社会ではとてもつらい立場に追いやられてしまいます。人の語る言葉（信）が信用できない時代。それが「信」なき時代、日本の今です。

私は仏教を信じています。では私は仏教のなにを信じているのでしょうか。私はお釈迦様の教えを信じています。つまりお釈迦様の「教え」が私の「信（まことの言葉）」です。前回申し上げたように「信」は人が寄って立つ安心の柱です。その安心の柱のある場所が「安らぎのところ」です。その場所を仏教ではいろいろな呼び方をします。彼岸、浄土、菩提、涅槃、悟りなどなど。私はかつてそれらはそれぞれ違うものだと思いこみ、違いがどこにあるかを知るためにいろいろな本を読みました。読めば読むほどこんがらがるばかりです。そして仏教は訳が分からない小難しいものとして放り投げる寸前に「涅槃（ニルバーナ）」を「安らぎ」と訳す経^{注1}に出会ったのです。後世の学僧たちがいろいろな理屈をこねてさも権威がありそうに厚化粧をして私たちを煙に巻いてきた仏教の教義は、実はとても易しく身近なものだということを見つけたのです。その時以来私はお釈迦様の教えに絶対的な「信」を置くことができるようになりました。「信」は「まことの言葉」です。ですから私は私が信じる教えをまことの言葉で今、語っていきこうと思います。

お釈迦様のまことの言葉（教え、信）はとてもシンプルです。「皆それぞれの安らぎのところ（悟り）に向かって毎日を生きなさい。そのためには執着を捨てて心穏やかに自分の頭で物事を考えなさい。日々そうやって過ごすことがあなた自身のかけがえのない安らぎのところなのです」これが私の帰依するお釈迦様のまことの言葉です。お釈迦様の教えを信ずればお金持ちになったり超能力を持てるようになるわけではありません。「教え」はあっけないくらい簡単で合理的です。「日々を自分の足と頭と心を遣ってちゃんと生きなさい」ということです。これを道徳や倫理観あるいは人が地球上でちゃんと生きていくための生活規範とみれば、他宗教や私たちが見聞きする現在ある仏教からすると、これを宗教と呼ぶことは困難なことでしょう。ただ私にはお釈迦様の「まことの言葉」に帰依することがすべてなのです。それが「信」です。

「信」と「まことの言葉」と「教え」は三位一体・不可分のものです。私はこの狂言綺語の場で今まで同じことを語り続けてきました。そして今お釈迦様の「まことの言葉」として改めてここにまとめました。また私が幾度も使ってきた言葉には他に「ありのままに観る」と「行い」があります。まことの言葉の中の「執着を捨てて心穏やかに自分の頭で物事を考えること」これが「ありのままに観る」ということです。仏教用語では「実相や真如」などと言います。「安らぎのところに向かって毎日を生きる」これが「行い」のことです。仏教用語では「修行」と言うようですが要は毎日をちゃんと過ごすことです。まことの言葉は簡にして要を得る言葉です。「ありのままに観ることで得られた信のままに日々を行うこと」がお釈迦様の教えの核心でありすべてなのです。ありのままに「観」たことをまことの言葉と「信」じ安らぎのところに向かって日々「行」うことです。「観」によって「信」が確立し「行」を続けることでまた「観」「信」「行」の日々を繰り返すこと。この三つのサイクルの中で日々を生きることが「安らぎのところ」なのです。

ところで人によって性格や能力など千差万別です。ですからお釈迦様はその人に合わせて具体的な「観」「信」「行」の方法（方便の教え^{注2}）をお話されてきたのだと思います。僧侶たちはその方法論のどれがお釈迦様の真実のものかと競い合い、後世仏教はいろいろな教団（方法論）に分かれていったのだと思います。方法論はどこまで行っても方便の教えです。お釈迦様は法灯明と自灯明で自らの道を歩みなさいという言葉で弟子たちに残して亡くなりました。法灯明はここに書いたお釈迦様の「まことの言葉（法）」です。そして自灯明はそれぞれの人の性格と能力に合わせて自らにふさわしい方法論を「自分の頭」で考えて進みなさいということ。法灯明は一つです。それはお釈迦様のまことの言葉です。自灯明は法灯明の導きによって歩む人の数だけあります。教団は自灯明だけでは心許ない人々が協力して歩むための仲間たちの集まりです。ひとりひとりの灯明が集まりある教団の灯明の塊となり、その灯明のいくつもの塊がいろいろな方面（方法論）からお釈迦様の掲げる法灯明に向かって歩いていく。これが仏教徒の信仰の姿です。

日本には古来言霊信仰がありました。言葉に霊が宿っておりその霊のもつ力がはたらい言葉にあらわしたことが実現するという信仰です。その信仰を悪用して今巷に掲げられる「美しい国、女性が輝く国日本」「成長戦略」などの国民の為の言葉。さてこの言霊が思惑通り現実のものとなるか、それとも為にする偽りの言葉となるか。言霊信仰では良いも悪いも言葉にしたとたんに実現してしまいます。だからこそ真の言葉しか語ってはいけません。さて私たちは耳に心地よいこの言霊がいつになったら 琉游舎：戸井 出琉・恭子 実現するか、信じて我慢強く待つしかすべはなさそうです。